

全国民闘連ニュース

第79号

1993年

7月 1日

年間購読料

3000円

発行 民族差別と闘う連絡協議会

連絡

〒537 大阪市東成区東小橋3-20-11近畿ビル3階8号 Tel 06-972-1608 Fax 06-973-5666
〒210 川崎市川崎区桜本1-8-22 Tel 044-288-2997 Fax 044-287-2045



— も く じ —

- 福岡民闘連動き出す
- 第7回大阪民闘連総会開催
- 討論のひろば
- 在日韓国・朝鮮人運動史入門
- おすすめの一冊

福岡民闘連動き出す！

福岡民闘連事務局 堀 聡



福岡で共闘する在日韓国・朝鮮人そして共闘する日本人が集い、去る2月19日に「民族差別と闘う福岡連絡協議会」（福岡民闘連）を結成し、その「発足を記念する会」を6月13日に県下全域、全国から百名をはるかに越す仲間を集め、盛大に開催しました。福岡民闘連は、全国民闘連の5つ目の地方組織（兵庫、大阪、神奈川、広島に次ぐ）であり、民族の違いを理解しあい、「共に生きる社会」をめざして活発な活動を始めています。

「発足を記念する会」では、はじめに鄭琪満代表が、結成までの経過と闘争報告、そして「在日」を生きる子どもたちが心開いて伸び伸びと生活できる社会をめざし、日本人と共に生きていく取り組みをじっくりと進めていきたいと、決意表明。それを受けて、神奈川、大阪、広島など各地域から駆けつけた民闘連のメンバーを代表し、褒重度会長から「福岡の地における取り組みが進むことは、九州全域に影響する。一人でも多くの支持者を得、差別撤廃と人権保障の確立に全力をあげてほしい。そして日本人とおたがいの違いのよさを認めあえるぬくもりのある共生社会に近づけるよう頑張してほしい。」と激励の言葉をもらいました。

そのほか、部落解放同盟福岡県連合会、自治労福岡県本部、社会党福岡市本部、在日大韓基督教福岡中央教会、福岡・在日朝鮮人教育を考える会などから次々に連帯のアピールを受けました。また、福岡民闘連の顧問弁護士も紹介し、無料法律相談等について案内もしました。

記念する会第2部では、会場は一層盛り上がり、立食パーティーで親睦を深め合い、おたがいの情報交換をしました。その場には、三重野社会党議員もかけつけ、共に闘う決意が述べられると大きな拍手が沸きました。民族舞踊・音楽が披露されると、いよいよ会場は盛り上がり、チャンゴのリズムに会場全体が揺れ、アリアンの大合唱は、共に生きる喜びが体いっぱいにあふれ出ていました。

大いに盛り上がった「発足を記念する会」でしたが、県下全域にその存在をアピールし、広く共に立ち上がる朝鮮人・日本人を結びつけた意義深い会合となりました。

第7回大阪民闘連総会開催

大阪民闘連事務局

5月23日(日)、大阪民闘連第7回総会を部落解放センターで開催しました。

一部では、金重明氏をお招きし、論文「在日僑胞の参政権獲得のために」にそって講演をいただきました。

続いて総会の議事に移り、金東勲大阪民闘連顧問より来年度発足予定のアジア太平洋人権情報センターの活動とその意義説明、財団設立にむけての10億円基金への参加呼びかけが行われました。同センターは、93年2月、大阪府・市が整備構想を発表、93年4月には行政と民間団体によって基本整備計画策定委員会が作られ、94年12月開設に向けて構想の具体化が図られようとしています。大阪民闘連としてはポストカードの販売などによって、設立にむけた活動に参加していくことが確認されました。

その後1992年度総括案、93年度方針案の一括提案、質疑が行われました。個別の闘いでは、鄭商根さんの戦後補償裁判支援・タチソ戦跡保存、公務員採用の国籍条項撤廃、民族教育の保障、年金問題、入居差別撤廃、就職差別撤廃、参政権裁判支援、差別事件への取り組み、外国人登録法改正など、具体的な取り組みの経過とその成果が報告されました。

会場から、泉大津市で外登法切替遅延で告発された崔久明氏、6月18日に入居裁判判決を迎える裴建一氏、天理大学学生寮での民族差別に基づく暴行事件について差別糾弾対策部朴洋幸氏よりそれぞれアピールを受けました。

●大阪民闘連役員●

顧問	金東勲
代表	洪仁成
幹事	崔元根
	李敬宰
	玄和男
会計監事	趙吉来
	裴建一
事務局長	徐正禹
教育対策部長	趙顕吉
生活対策部長	鄭順一
労働対策部長	李昌宰
教育宣伝部長	高 正
差別糾弾対策部長	朴洋幸

討論のひろば

民関連綱領(9)にある「日本籍朝鮮人」の民族性保障…を

「日本籍」朝鮮人の民族性保障…に

民関連日本籍者部会 鄭 琪 満

「帰化」をした、また「ダブル」の人間は朝鮮人か否か

18才頃のことだったと思う。兄の就職時の民族差別がきっかけで、家族ぐるみの「帰化」の申請をしていた頃、高校に行く自分をにらみつけて部落の一世のハンメが「チョッパリになったか!」と叫んだ。チョッパリという意味を私は知っていたし、部落内ではそれは怒りと蔑みの言葉であった。

家庭内外にあっても、通名であっても、そして私の意識を形成するものが“クサレチョーセン”であっても、私には自分が日本人であるなどという意識はなかった。ハンメが投げつけた怒りや思いは、私にとって、自分の置かれている状況を直視させることにはなっても、何かおかしいとは思っても、「民族差別である。変革すべし。」という形にはならなかった。“チョッパリ”化しようとしていた自分には更に、“クサレチョーセン”が募ることになる。結果、朝鮮籍から日本籍となった自分は、勝ち取ったわけでもない法律的なるものは日本人とほぼ同様になった。かといって、在日朝鮮人から

逃れられたのかということそうではない。

「在日」に生きていかざるを得ない。逃げ隠れれば、日本人として生きていけるだろう。それは、自分という在日朝鮮人が解放されるというには程遠い。「日本籍」の在日朝鮮人として存在する。私にとって「朝鮮籍」や「日本籍」は後ろからついたもので、出発は、在日の朝鮮人なのである。

韓国に行って調べたら、韓国に「帰化」するのではなく、書類の操作で自分が韓国籍を取れる可能性があるとわかった。素直に喜び、その時は実現しようと考えた。しかし、韓国籍、朝鮮籍でなければ韓国人、朝鮮人ではないという認識ゆえに、結果的に増大している日本籍の在日朝鮮人問題に対して、総体として取り組むことが少ない在日社会において、この行為は自分を慰めることになっても、在日韓国・朝鮮人の諸問題への何の解決にもならないと考えている。「在日」を規定するものは、国籍ではないと考えるからだ。

「日本籍朝鮮人」と最初と最後を「」で閉じてしまえば…

これは朝鮮人か否かの問いかけである。組織や綱領が文言でどう規定されようと、生活する人間は、隠そうか隠すまいが、在日韓国・朝鮮人である。

「元朝鮮人」や「韓国・朝鮮系日本人」という言葉を聞くが、この文言はそれに近い。

これは根強くある“チョッパリになったか!”という認識(主体的に生きるのではなく、客観的な柱によりかかる)と共通するところであり、これを深く考え、どこかで変えていかなければ、日本社会からあらゆる民族差別をなくし、日本人と共に生き得る多民族社会を創造しようとする自分たちにとって、在日韓国・朝鮮人の未来を切り拓いていく力にはなり得ないと考えている。在日韓国・朝鮮人の将来を「韓国系、朝鮮系日本人」と置き、過渡的に「日本籍朝鮮人」という表現を使うならば、その意を達することができと思うが、果たして、民闘連の共に闘う人々がこの規定を肯定したところで行動しているのかというと、そうではあるまいと確信する。

今現在においては、結果として民族差別に負け、「帰化」せざるを得なかった在日朝鮮人や、朝鮮人と日本人を両親にもち、生まれたときから日本籍の「ダブル」の人間にとって、「韓国系・朝鮮系日本人」と近い「日本籍朝鮮人」という表現は、自らを克ちとる時に、民族差別を許さず、共に生きる社会をつくる時に闘うべき対極の表現としてある。

当初から現実問題を見据えていた民闘連は「日本籍」の在日朝鮮人の交流、結集、闘う場としてあった。そして今後全国民関連の民族部会の中に日本籍者部会を作り、在日韓国・朝鮮人総体の取り組む課題のひとつとして確認された。当事者それぞれは意を強くしている。前文にあるように、“在日韓国・朝鮮人は、もはや韓国・朝鮮籍と日本籍という3つの国籍にまたがる集団である”ことをしかと認識し、民闘連に集う一人として、闘い、共に生きる社会をめざしていきたいと思う。

それぞれの現場であらゆる民族差別をなくし、共に生きる社会を創ろうとする「日本籍」在日朝鮮人にとって、まず自己規定のところでつまづくのでは、民闘連活動をやっていくときに躊躇してしまうところだ。まずは在日韓国・朝鮮人どうしの内部でエネルギーを使わねばならない。もちろんこの作業は「国籍差別」をする諸組織にはやらなければならないことだ。しかし、民闘連は等身大の在日韓国・朝鮮人にいつも目を見据え行動してきたと思う。

福岡においても、その意を共有し福岡民闘連を結成した。たかが文言であり、

「」をどこにつけるかの問題であると思う。なぜなら、実践としての運動は既にあり、思いを共有し闘う人々が培ってきたからだ。だからこそ、この問題にこだわり、運動を強く推し進めるために改訂を求めるものです。

在日韓国・朝鮮人運動史入門

●1920年代③

日本各地で結成された在日朝鮮人労働者組織が統一して、1925年2月22日に東京で在日本朝鮮労働総同盟の創立大会が開かれた。大会では宣言、綱領、規約が採択され、執行委員会、組織宣伝部、中央争議部、職業紹介部などの組織が設置された。

綱領、主張とともに、労働組合としての一般的要求(8時間労働、最低賃金等)が中心で民族的な要求は前面には出していなかった。

在日朝鮮労総は機関誌「朝鮮労働」「労働読本」を出した。

在日朝鮮労総が結成されると、東京、大阪を中心に新しい労働組合が次々に結成され、結成当時の11団体、800余人が1926年10月には25団体、約9900人と急成長した。

1927年4月には第3回大会を開催し組織の再編成を行った。

その大会宣言においては、次のように述べられている。「民族的差別と虐待はわれわれの二重の桎梏である。…われわれの大多数は言語の不通、感情のくいちがい、習慣の相異…によって日本労働組合に直接参加することが事実上不可能という過渡期にある。」このように民族差別の問題がより明確に提起され、民族的組織の必要性が主張されている。

この大会では、組織形態を分散的なものから集中的に改編し、各地の朝鮮人組合を整理統合して一府県単一組合原則とした。

在日朝鮮労総の組織人員は第3回大会時で30,312人となった。

第3回大会では、朝鮮労総は自由労働者だけに限定し、工場労働者は日本労働組合評議会に加入すべきであるという意見も出たが、民族差別など「特殊的条件」は無視できないとして退けられた。この点に関して活動家の一人は「在日朝鮮労働者は日本資本家に対してのそのスローガン等は単純に労働関係よりも民族的差別が常にその主的条件たらざるを得ないが故に、吾等はその組織活動従って組合運動に於ても、この特殊的条件を軽視することはできない。」と述べている。

このように民族的課題を重視したからこそ、朝鮮労総は発展し、大衆の支持を得ることができた。また、本国での民族独立運動、特に左翼陣営での分裂状況に対して「厳正中立を固辞し、分立から統一への転換を促進する」と運動方針で述べるなど、セクト主義に反対して大衆団体として統一を守った。

在日朝鮮労総の展開した運動については次回に詳しく述べたい。

文責：高 正

おすすめの本 1冊

「新 よりよき隣人として～在日韓国・
朝鮮人の人権を考える」

監修：鄭早苗

山本冬彦

徐正禹

編集・発行：

在日韓国・朝鮮人問題学習センター

☎06-972-2065

発行日：1993年5月10日

定価：700円



このパンフレットは、1984年の郵便外務職の国籍条項撤廃を契機に、郵便職員の啓発用に作成された。その後入門啓発用として好評を得たため、増版を重ね、さらに状況の変化に対応するために88年に改訂版、90年には補足資料を添付したものが発行された。

1991年のいわゆる日韓「覚書」以降、在日韓国・朝鮮人をめぐる環境は大きく変化した。そこで、今回、大幅な原稿の改訂、写真、資料などの変更を行い、「新よりよき隣人として」が発行されるに

いたった。

内容的には、在日韓国・朝鮮人の直面している生活上の諸問題——戦後補償、障害年金(無年金者の存在)、公務員採用、入居差別、就職差別、差別語、教育の問題などをわかりやすく解説している。「91年問題」を指紋押なつ制度一点にすりかえてごまかした日本政府が解決しなければならない問題点を、だれにでも理解できるように配慮された最高の入門書である。

(編集部)

全国民闘連ニュース購読のお願い

全国民闘連ニュースの購読ありがとうございます。

全国民闘連ニュースは、全国各地の民族差別と闘う様々な取り組みの紹介、出来事や人物の紹介、また、いろんな角度からの意見交換を進める機関誌として発行してきました。これらの輪をさらに広げていくためにはより多くの方々に購読をお願いしたいと思います。是非、購読をお願い致します。

[購読料] 年間3,000円

送金方法 郵便振替「大阪9-76163民族差別と闘う連絡協議会」

'93 民族差別とたたかう関西交流集会

関東大震災 70 周年、日本社会の民族排外意識を問う直す

とき; 1993 年 9 月 12 日 (日) 午前 10 時 ~ 午後 4 時

ところ; 大阪府同和地区総合福祉センター

(JR 環状線 芦原橋駅下車徒歩 5 分)

主催; 民族差別とたたかう関西交流集会実行委員会

(連絡先 06-972-1608 大阪民闘連内)

(裏面に案内図記載)

参加費; 1000 円

一九九三年九月一日、関東大震災で六千人以上の在日韓国・朝鮮人が虐殺されました。本年は、そのいまわしい虐殺のときから数えて七〇周年を迎えます。

わたしたちは、この歴史を忘れず、今日における民族差別撤廃運動にいかすため、毎年この時期に「民族差別とたたかう関西交流集会」を開催してきました。

日本社会の民族排外主義は、今なお根深く存在しています。本年の一月に発生した天理大学学生寮内における一人の在日韓国・朝鮮人学生に対する集団暴行事件は、それを如実に物語っているといえます。また、「韓国かえれ」等のような差別落書きや本名で学校に通う子どもに対する差別事件が続発しています。

本集会では、このような民族差別、排外を一日でも早く解決しようと、日々取り組まれているみなさんとの交流を行います。

みなさんの積極的な参加をお待ちしております。

集会プログラム

- △ 午前の部 > 一〇:〇〇 ~ 一二:〇〇 (全体会)
 - ・ 基調報告
 - ・ 記念講演 「関東大震災朝鮮人虐殺と天理大学差別事件」
 - 講師 藤原史朗氏 (尼崎市立尼崎高等学校教員)
- △ 午後の部 > 一三:〇〇 ~ 一六:〇〇 (分散会)
 - ・ 戦後補償 鄭商根氏、姜富中氏、李昌錫氏の取り組み / 戦跡保存 等
 - ・ 生活の中の差別 公務員の国籍条項と就職差別 / 入居差別 / 年金問題 / 外資法 等
 - ・ 教育 保護者会活動 / 教育現場の差別事件 日本籍朝鮮人 等